海上の森

幼児森林体験マニュアル

～フィールドの森づくりと実践活動にあたって～

平成21年3月

あいち海上の森センター

（ムーアカデミー）

はじめに

愛知県は、「海上の森」を「愛知万博記念の森」として愛知万博の理念や成果を継承し、人と自然のかかわりのあり方を示す場所として保全・活用するとともに、県民参加のもとに森林や里山に関する学習と交流の拠点づくりを進めています。

その活動の拠点である「あいち海上の森センター」では、県民向けの各種体験学習プログラムを実施し、平成 20 年度には「海上の森・体感ユニバーサルプログラム　マニュアル集」を発行するなど、子どもから高齢者まで、障害のある方も含め幅広い県民参加の実現を目指してきました。

今回、その取り組みの一環として、森林を活用した環境教育の先進地であるドイツで広く実践されている、園舎を持たずに森の中で保育活動を行う「森のようちえん」活動をモデルに、幼児による野外活動や幼児教育の場として森林の新たな利用方法を、「海上の森」から広く発信し、その取り組みの輪を広げていくことを目的に、「幼児森林体験マニュアル」を作成しました。

このような幼児向けの森林体験を進める取り組みは、日本でも関心が高まっており、全国的な活動展開が進んでいますが、まだ一般には普及していない状況です。

幼児期から自然に親しむことが良いこととは何となく分かっていても、そのような機会やきっかけがないというケースがほとんどだと思います。本書をきっかけに森林と接する機会が少しでも増えることを期待しています。

なお、本書の作成にあたっては、幼児教育の専門家、森林利用・森林生態の研究者、環境教育や「森のようちえん」活動に取組む市民団体の代表者などを委員として、「海上の森　幼児森林体験推進会議」を設置し、それぞれの立場から貴重なご意見をいただきました。委員の皆様方にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

平成２１年３月

あいち海上の森センター
（ムーアカデミー）

所長　三　輪　公　夫

目　次

1　マニュアルのねらい …… 4 P

2　幼児森林体験はなぜ必要か？…… 6 P

3　幼児森林体験フィールドの森づくりにあたって … 14 P

4　幼児森林体験活動の実施にあたって …… 28 P

5　リスクマネジメント・安全管理 …… 40 P

6　今後の展開 …… 43 P

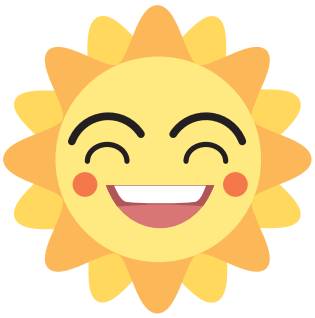
参考

〔1〕海外の先進的な取り組み「森の幼稚園」…… 46 P

〔2〕ドイツの「森の幼稚園」の視察報告 …… 49 P

〔3〕県内の活動事例 …… 54 P

〔4〕海上の森幼児森林体験推進会議 …… 59 P



1．マニュアルのねらい

本書は、幼児が森林体験できるフィールドづくりに関する基本概念、幼児教育の中での森林体験の位置づけなどが要約されており、幼稚園・保育園の野外保育や、幼児が保護者とともに森林体験を実施するときのための基礎知識と、身近にある森林を幼児森林体験フィールドとして利用するにあたっての整備手法が学べる内容となっています。

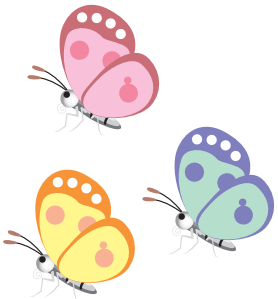
ただし、本書はあくまでも「幼児期における森林体験の必要性」や「幼児教育の場としての森林活用」に対する提案であり、本書のとおりに実施することがすべてではありません。実際に活動を始めるには、どのような形で体験をさせるべきか、そのためのフィールドや施設はどのように整備すべきか、安全管理はどのようにすべきか、といった様々な問題があると思います。そのような問題を解決するために本書がお役に立てば幸いです。

今回は、フィールド整備のモデルとして、「海上の森」の一区域を「海上の森　幼児森林体験フィールド」として整備しました。本書に記載されている内容は、すべてこのフィールドで実際に体験できるものとなっていますので、本書の活用にあたりましては、ぜひこのフィールドを訪れて実際に体感していただければと思います。

海上の森イメージキャラクター
「かいしょクン」 が案内します。

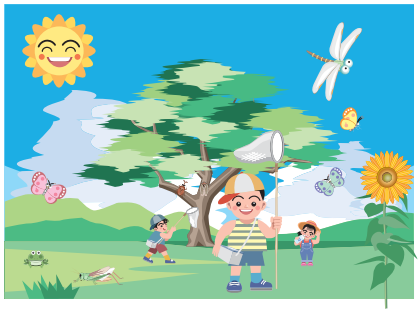
森には子どもたちに感じてほしいことがいっぱいあります！

不思議に気づく感性を育てよう！



- 自分たちの身の回りのなぜ？に目を向けよう。
- 自然の中で不思議を見つけよう。
- 不思議に驚く感性を育てよう。
- 気づきから考えることを学ぼう。
- 自自然の素晴らしさを知ろう。

つながりを学ぼう！



- 自分たちと自然のつながりを学ぼう。
- 虫と自分たちのつながりは？
- 土と自分たちの暮らしのつながりは？
- 土と虫とのつながりは？
- 植物と虫とのつながりは？
- そしてみんなつながっていることに気づこう。

自然がなければ生きられない！

土も虫も植物もみんな自然からの贈り物。私たちの暮しはすべて自然がくれた物です。自然を大切にすることが、環境や私たちの暮しを守ることの基本です。良い環境は豊かな自然があってはじめて成立します。地球の自然は多くの生き物で支えられています。決して人類のためだけにあるのではありません。そんなことを子どもたちに伝えていくのが環境学習の基本です。

森林体験で感じることからはじめよう！

2. 幼児森林体験はなぜ必要か？

○ 自然環境の理解者育成の観点から

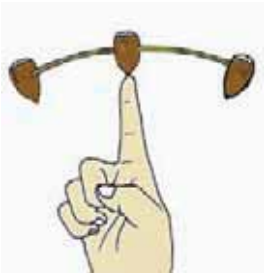
自然環境の理解者を育成するためには、まず自然の素晴らしさを知ることが大切です。幼い時に森林や自然の中で遊んだ経験は原体験となり、大人になった時に自然の価値や保護することの必要性を認識することにつながります。自然にまず親しみ、自然の大切さを知る最初のきっかけになるのが「幼児森林体験」です。

◆森林が放置されている！

現在日本の各地の都市近郊では多くの里山の森林が整備や活用されることなく放置されています。そのような森林の有効活用が必要とされています。

◆幼児森林体験の場としての利用の提案！

放置されている里山の森林を「幼児森林体験フィールド」として整備し活用することは森林の有効利用方法として有意義なものだと思われます。都市の子どもたちの自然体験不足を解消するためにもフィールドは是非必要です。



◆子どもたちはどこであそべばいいの？

さらに都市では子どもたちが安心し、自分たちで遊びを創り出したり自分のペースで遊べる場所が減ってきています。ゲームセンターや小さな公園の滑り台やブランコ程度の遊びしかありません。子どもの想像力や、新しい発想を生かす場所が必要です。

◆将来の人材育成のためにも

幼児期に自然や森林を体験することで、自然の大切さや自然に対する理解が生まれ、やがて大人になった時に自然を理解し、自然を守ることのできる仕組や、社会を構築することができる大人になります。

○ 森林整備推進の観点から

里山は人が生活のために手を入れることで維持されてきましたが、生活様式の変化等に伴い放置され、里山景観の悪化や生物多様性の低下などが問題となっています。昔のように生活のために森の手入れをすることはできなくても、違う形であっても森林を利用し、手を入れることは森林の維持管理のためには有益なことであることは間違いありません。その利用方法の一例として「幼児森林体験フィールド」として森林を活用し、整備することが、森を守り育てることとなり、生物多様性の向上にも寄与するものと考えられます。さらに整備をボランティア活動で行う場合においても、森林整備自体を目的とした活動とは異なり、様々な他分野の関係者が森林整備の担い手となってくれることも期待されます。

○ 幼児教育の観点から

文部科学省の幼稚園教育要領の中で随所に現れる言葉に「自然」があります。幼児教育の中で欠かせないのが自然体験です。自然体験で幼児は旺盛な興味や関心を育て、さらにその体験から豊かな感性や心を育みます。

幼児の成長に欠かせないのが豊かな体験と、その体験を通じて育つ知能や体力です。その体験の場が豊かな自然や森林であれば、さらに効果があります。

学校教育法　～幼稚園の目的・目標～

身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。

「幼稚園教育要領」から抜粋（平成21年4月1日施行）

ねらいと内容（環境）

（1）自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
（2）生活の中で様々な物に触れ、その性質や仕組に興味や関心をもつ。
（3）季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
（4）自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ。
（5）身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする。

内容の取扱い

（1）幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然との関わりを深めることができるように工夫すること。
（2）身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、公共心、探求心などが養われるようにすること。

このように、幼稚園教育要領の中で「自然」と言う言葉がふんだんに使われ、幼児期における自然体験が重要であることがよくわかります。

しかし現在の幼稚園や保育園の立地条件や、現場での対応は必ずしもこのような状況にはなっていません。この問題を解決するための一つの方法として、今回「幼児の森林体験フィールド」をモデル的に設置しました。この場を利用して様々な形での幼児森林体験活動を行い、その結果を広く情報発信していくことが、現状の問題の解決の一助になると思われます。

幼児の発育にとってもっとも大切なのが、体験から学ぶことです。それも自然や森林環境こそが人類のふるさとであり、もっとも大切な原体験の場です。幼児にとっては理論や法則は必要でなく、自分で触り、試し、体験することこそが学びなのです。体で覚える、感覚で理解する、それが幼児の世界なのです。

レイチェル・カーソンは彼女の著書「センス・オブ・ワンダー」の中で述べています。

子ども達への一番大切な贈り物は
美しいもの、未知なもの、神秘的なものに
目をみはる感性「センス・オブ・ワンダー」です。
その感性を育むために、子どもたちと一緒に
感覚のすべてをかたむけて
自然とふれあいましょう。

レイチェル・カーソン著
「センス・オブ・ワンダー」より

幼児期の自然体験にはこんな効果があります！

環境教育の先進地の事例から

環境について知ることで、子どもたちはどのような行動が環境に良いか、あるいは悪いかを学ぶことができます。しかし学んだことを環境のための行動へと活かしていくためには「退屈な」知識を与えるだけでは足りません。環境教育の先進国であるドイツのキール大学自然科学部ライプニッツ教育学研究所が行なった、体験型授業の効果についての興味深い研究結果があります。1,200 人の生徒にアンケート調査をした結果、**環境を守る行動を促進するためには、環境に関する知識を教えるよりも自然体験をさせるほうが 7 倍も効果が高い**ことがわかりました。

このように知識よりも自然体験がより環境教育に効果的なことが証明され、その結果知識を教えるのが難しい幼児には「自然体験」を十分にさせることがより効果的であり、適切な方法である事が認知され、現在のドイツの環境教育のスタートの幼児期には自然体験が取り入れられ、さらに進化して、「森の幼稚園」などの取り組みが始まったのです。日本式のリサイクル、省資源などの知識優先型の環境教育がその効果を上げられない中でドイツやノルウェー、デンマーク、スエーデンなどが環境先進国として温暖化防止などでもリードしているのも、環境教育に取り組む姿勢の違いがあるのだと思います。

環境問題の原点は地球の自然を我々が破壊することで「地球環境問題」が発生をすることであり、私たちが地球の自然といかに共存し共生できるかにかかっています、そのためにはまず、私たちが地球の自然の仕組を理解することから始めなければなりません。そのために自然とふれあい、自然を理解することから始めなければなりません。日本の諺に「三つ子の魂、百まで」があります。これは「幼い時からの性質は大人になってからも変わらない」と言うことです。つまり、幼児期に自然体験をさせ、自然の素晴らしさや、地球の自然の力を知っておくことが必要なのです。環境先進国では環境教育や幼児期の教育の場でそれを実践しているのです。

○ 幼児には森林での「遊び」が「学び」となります。

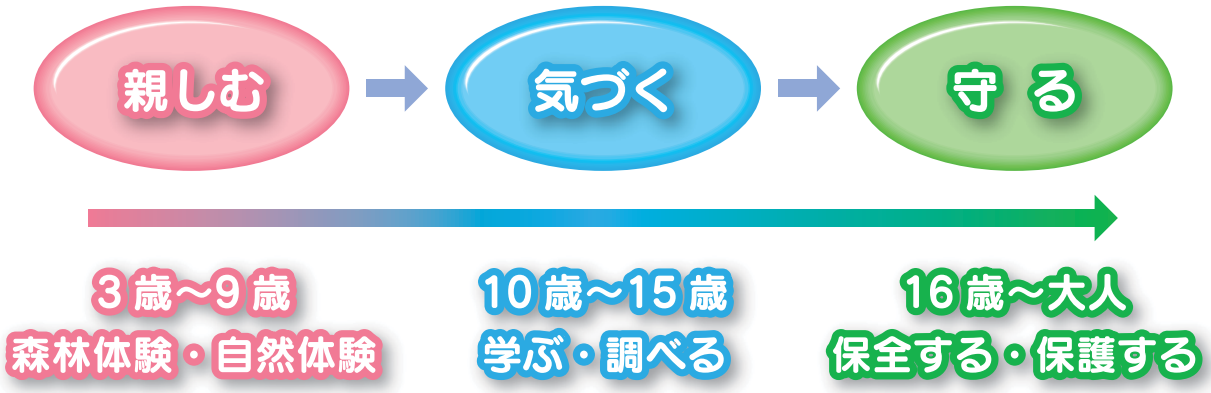
幼児が森林で「遊び」を通じて様々なことを体験することで、いろいろなことを「学び」ます。これが、「幼児森林体験」の目指すところです。

森林体験が、幼児の人格形成や価値観、世界観などを形成していくうえでの大切なものを育んでくれます。

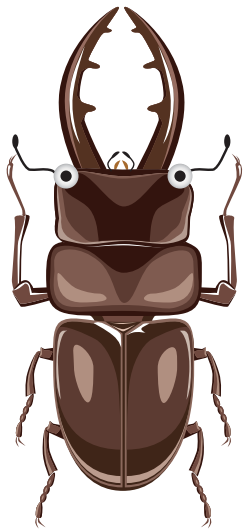
森林体験が、幼児の人格形成や価値観、世界観などを形成していくうえでの大切なものを育んでくれます。

そんな素晴らしい体験を安全に体験させてあげるのが**「幼児森林体験フィールド」**の役割だと思います。あまり大人の考えた理屈でつくられたプログラムが必要とは思えません。プログラムはあくまで「遊び」をサポートするものです。森で暮らす多くの昆虫や、小動物、可憐な草花、子育てをする小鳥たち落ち葉が土に還り、キノコが育つ、森から水がわき出てやがて川になり田畑を潤す、そんな光景を自分の目で見て、感じて、感動して心に焼き付けていくことが森林体験や自然体験の目指すところだと思います。

体験型自然学習



森林環境が幼児に与える効果は、まず間接体験ではなく、すべての行動が直接体験につながることです。これは知識や頭で覚えることでなく、直接自分が体験をして判断し理解していくことができるのです。自分のペースで体験し、判断し、理解していく、幼児の個性や特性が否定されることなく、同じ体験をしても感性や判断力の違いによって答えが違ってきます。これはその子の個性を尊重する教育の原点になる要素です。みんなが同じことを同じように理解し覚えさせられるのとは違った学習要素なのです。



森林環境では、地球の時間と同時進行の学習ができます。春には春の草花や、昆虫が見られ、夏になると夏に生育する植物が現れます。さらに夏に日本に来る渡り鳥や、夏の昆虫が現れます。季節の移り変わりや、時間の移り変わりをリアルタイムで経験できることで自然との一体感や、人類の生活と地球の時間が同じサイクルで動いていることが体験的に学習できます。人類以外の地球の生物は地球のサイクルで生きていることが学べます。これは自然保護や、森林の保護を学ぶときの大切な基礎部分になる観念です。「生き物のつながり（生態系）」が体験として学べます。花が咲くといつの間にかその蜜を求めて蝶や蜂が集まってくる、そしてその昆虫を目当てに鳥が集まり、木の実がなるとその実を求めて鳥がくる、自然が全体としてつながり、機能していることを体験として学ぶことができます。

○ 他にも「森林体験」にはこんな効果があると言われています！

1. 理論的な知識を学ぶことが難しい幼児期には自然体験が効果的です。
2. 森林で幼児期に体験したことは生涯忘れません。
3. その後の成長期に大きな影響が出ることが予想されます。
4. 人類の力では到底かなわない大きな力の存在を知ることができます。
5. 不思議や感動する感性が触発されます。
6. 命の大切さを体感できます。
7. 多くの植物や命に接し多様性の意味が体感的に学べます。
8. 虫や土が嫌いな自然拒否の行動が減ります。
9. 自分で考えて行動したり、遊んだりする能力が身に付きます。
10. 危険を察知し、危険からの回避能力が身に付きます。

幼児期の森林体験では、物やおもちゃを十分に与えられて遊ぶことしかできない現代の幼児や子どもに、自分で遊びを見つけて遊ぶ、遊べるものを考える能力、遊びを作り出す能力など本来子どもが持っている能力を引き出すことができます。